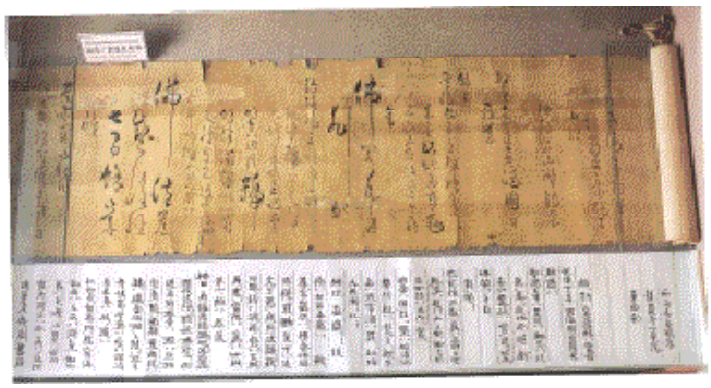
坊津一乗院聖教類等

【所　在　地】南さつま市津町坊 9423 －１　坊津町歴史民俗資料館
【種　　別】県指定有形文化財（古文書）
【指定年月日】平成２年３月 23 日



一乗院は薩摩における真言宗最古刹であり，明治２（1869）年鹿児島県の寺院が全廃となる最後の廃寺令により廃寺となった。この時，破却処分をまぬがれた仏教関係の聖教類等 18 巻の巻物が歴史民俗資料館に保存されている。

一乗院の黒印や坊津龍厳寺常住の書判により，坊津一乗院に古くから伝来されたものと推定される。『聖教』・『印信』及び『一乗院来由記』を含む。

廃仏毀釈の際も焼却をまぬがれ，平安時代から江戸時代までに至る聖教類が存在しているのは，本県における密教関係の研究をするうえで非常に貴重である。

〈参考〉

●聖教……仏の教え，及びその言葉を記した経典類のこと。

●印信……真言宗，天台宗などの密教宗派で師が弟子に秘法を伝授した証として与える書きもの。

●廃仏毀釈……明治初年の仏教への抑圧，破壊運動で全国的に寺院，仏像等の破壊や焼却が行われた。